

愛媛大学医学部附属病院を受診している患者さんへ

研究に対するご協力をお願い

愛媛大学医学部附属病院では、医学・医療の発展のために様々な研究を行っています。この研究は、愛媛大学医学部附属病院の臨床研究倫理審査委員会での審査・承認、病院長の許可を受けて実施しております。

今回の研究では、患者さんのカルテの記録や通常の診療で行った検査の後に保管されている残った試料（血液）を使用します。

研究の内容を詳しく知りたい方や、カルテの情報や保管されている試料（血液）を利用することにご了解いただけない方は、以下のお問い合わせ先までご連絡下さい。

研究課題名	原発性胆汁性胆管炎における長期予後予測因子の検討
研究機関名	愛媛大学医学部附属病院
試料・情報の提供を行う研究機関の長	愛媛大学医学部附属病院 病院長 杉山 隆 (試料・情報の提供元の管理責任者)
研究責任者 (個人情報管理者)	第3内科（地域医療学） 准教授 阿部雅則
研究期間	研究機関の長の許可日 ～ 2027年 3月 31日
対象	2023年3月31日までに愛媛大学医学部附属病院で原発性胆汁性胆管炎と診断された患者さん
利用する試料・情報等	(利用するカルテ情報) 発症時年齢、性別、診断時血液検査値、治療開始時期および薬剤名、治療開始1年時点での血液検査値、経過観察中のイベントの有無、など (利用する試料) 通常の診療で使用した後に残った試料（血液）
研究の概要	原発性胆汁性胆管炎（primary biliary cholangitis; PBC）は慢性に経過する胆汁うっ滞性肝疾患です。国内では第1選択薬としてウルソデオキシコール酸、第2選択薬としてベザフィブラートが使用されてきました。しかし、PBC患者における長期予後予測因子の報告はまだ少ないのが現状です 今回の研究では、国内4施設の共同によりPBC患者の臨床情報及び保存血清を収集し、診断時あるいは治療開始1年における臨床情報および新たに測定する血清マーカー値と長期予後との関連を統計学的に解析して、PBC患者における長期予後予測因子を明らかにすることを目的とします。
個人情報の取扱い	収集した試料・情報は名前、住所など患者さんを直接特定できる情報を削除いたします。患者さんを特定するための情報（対応表）は、院内で個人情報管理者が厳重に保管いたします。そのため個人を特定できるような情報が外に漏れることはありません。

	なお、研究結果は学術雑誌や学会等で発表される予定ですが、発表内容に個人を特定できる情報は一切含まれません。
お問い合わせ先	愛媛大学医学部附属病院第3内科 阿部雅則 791-0295 愛媛県東温市志津川 454 Tel: 089-960-5308

【共同研究について】

この研究は、他の病院や研究施設と共同で行っています。

対象となる患者さんのデータ/試料は、名前や住所など患者さんを直接特定できる情報を除いた上で、CD-R に保存した電子ファイルを郵送することによって帝京大学医学部内科学に送られます。多くの情報を解析することで、医学・医療の発展に役立つ成果が得られることが期待されます。

【研究組織】

研究代表者	帝京大学医学部内科学 田中篤
共同研究機関	国立病院機構長崎医療センター、信州大学